

【北海道湧別町】 1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

本町では、学習指導要領及び中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』の考えをもとに、4人でのグループでの学習を基本とし、児童生徒がお互いに聴きあう関係に基づくコミュニケーションを基盤とした学びあいを行う「湧別町型学びあいのある学び」を、「問いの提示・課題共有」、「児童生徒間・児童生徒と教員間のコミュニケーション」、「意見発表」などに ICT を効果的に活用して実践することで「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指します。

また、Society5.0時代に生きる子どもたちにとって、一人一台端末は必要不可欠なものであり、ICT活用の基礎能力を身につけるとともに創造力を育む ICT 教育環境の実現を目指します。

2. GIGA 第1期の総括

令和2年度に1人1台端末整備及び各学校のネットワーク環境整備を行いました。令和3年度からは ICT 教育推進委員会設置、デジタル教科書、Google Workspace の導入を行いました。

ICTの活用は、当初学校間で差が生じているうえ、本町は管内ではシェアの少ない OS 端末整備となったことから、町全体としても他市町村より遅れをとっておりましたが、ICT教育推進委員会や ICT 活用に意欲的な教職員が授業や校務での活用方法の研鑽を積み、各学校で他の教職員を牽引したことで、ICTの活用が進み、今では文房具のひとつとして、当たり前のように授業で端末が活用されています。

しかし、利用頻度自体は、ほぼ毎日となっていますが、ICT活用方法や利用状況については、依然として学校間で差があることや教職員の活用能力の個人差は解消できていない状況があります。

全道的に授業や校務における有用な活用方法が蓄積されている Google Workspace の導入により iOS 端末の安定性や直感的操作に定評のあるアプリ活用に、加えて授業支援や校務 DX のさらなる推進を目指すとともに、学校間の活用差の解消をできるよう町としての共通の活用法をまとめ、共有できる体制づくりなど ICT 環境の充実と教職員支援を推進していきます。

3. 1人1台端末の利活用方策

令和2年度に整備した1人1台端末は、令和7年度末で納品から5年を経過することから、令和8年度中に全児童生徒及び教員分を更新し、引き続き児童生徒の1人1台端末環境を引き続き維持していきます。

(1) 1人1台端末の積極的活用

ICT教育推進委員会や町学校推進協議会などと連携してICTに関する研修の開催や、町内各学校でのICT活用方法を共有できる体制づくりを進め、教職員に有用な活用支援を行い、端末の活用を推進していきます。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

児童生徒が授業中に教材や課題を調べる場面でのインターネット活用や教師と児童の課題・資料共有、児童生徒の意見や学習成果発表の場面でのアプリや写真・動画の利用、教職員と児童生徒や児童生徒間のコミュニケーションツールなどに、積極的に端末を活用することで、「湧別町型学びあいのある学び」をより充実した実践としていきます。

また、子どもたちの学習活動をICT活用による可視化やデータ化することで、個別最適な学びの充実に取り組んでいきます。

(3) 学びの保障

不登校児童生徒や様々な配慮を要する児童生徒等の実態や希望に沿って、端末の活用による最適な支援を推進していきます。